

# 江青女史に注目

## 「周恩来なき中国とその将来」

### 山陽時事問題懇談会 中嶋氏が講演

山陽時事問題懇談会（会員組織、代表世話人・松岡良明山陽新聞社長）は十五日正午から岡山市駅前町のホテルニューオカヤマホールで岡山会員の第百六十六回例会を開き、東京外国語大助教授

十四時開スト。全通は全国十一拠点で二十四時開スト。全林野、全専売、全印刷、全産電、アルコー

の中嶋嶺雄氏が「周恩来なき中国とその将来」と題して講演した。中嶋氏はまず「厲恩来首相なきあの中国では、走資派批判が起き、鄧小平副首相がその矢面に立たされているが、中国をみる場合非常に巨大で流動的なので固定的

な観念ではなく、柔軟な視野に立つてみる必要がある」と前置き「通俗的だが鄧小平氏が同首相の追悼大会で弔辞を讀んだことは冠婚葬祭を重んじる中国にとっては大変なことだ。とくに弔辞の中身が岡氏の著述をふりかえるだけに

とどまらず中国革命の総括をしたのだから走資派批判をつづける江青女史など文革派の人たちにとっては心中おたやかではなかつたらう。昨年から実務派有利の体制ができたのが、ますますつづけていた走資派批判はこれをきつかけに一層激しくなった」と説明した。



中嶋氏を迎えて開かれた山陽時事問題懇談会の岡山会場

日ストを実施する。民間は全国金属、全造船二時間以上平日、炭労一時間、政府関係特殊法人労組一時間以上のストの

ほか、全港灣、私鉄総連、全日通などが勤務時間内、外の職場集会を開く。

「今後は毛主席の夫人である江青女史の行動を見守ることによって中国のナニを解く糸口がみつかるのではなからうか」と語った。なお、山陽時事問題懇談会岡山会場の第九十一回例会は十六日正午から福山市の福山グラウンドホテルホールで開かれる。